

堤防の移り変わりを知る

R2.2.20

～揖保川支川林田川の堤防調査～

姫路河川国道事務所

洪水から町をまもる河川堤防は、「土」で作られた長大な構造物です。古くから整備が進められ、洪水被害を受ける度に嵩上げされることもあり、その構造がはっきりしていないものもあります。

現在、揖保川支川林田川では、洪水の流下能力向上を目的とした赤井頭首工の改築工事を実施していますが、工事に際して堤防開削を行うことから、堤防調査を実施しました。

位置図



現地調査の様子

下の写真は、開削した堤防断面の様子です。テープを張り、断面の様子をスケッチをしているところです。土質観察の後、試料採取を行い、土質試験を行います。



開削した堤防断面

調査研究について



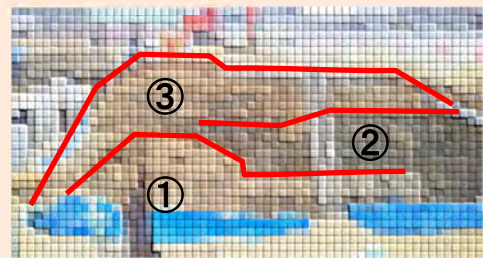
電気探査の機器



表面波探査の様子

堤防の非破壊調査の研究を進める近畿大学理工学部社会環境工学科の河井准教授からも協力を得て調査を進めています。

調査結果について



土質の違いから、3回にわたって築堤が進められたと推測されます。

今後、非破壊調査による土質試験の結果を踏まえ、堤防の連続的な調査を進め、安全性向上に役立てていきます。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 工務第一課
〒670-0947 姫路市北条1-250
TEL079-282-8211

